

九州大学経営協議会議事録

日時：令和元年6月20日（木）13：00～15：00

場所：九州大学 椎木講堂大会議室

出席者：29名中20名出席

【構成員等の紹介】

経営協議会委員及び本学の役員等について紹介があった。

【審議事項等】

1 総長選考会議学外委員の選出について

総長選考会議学外委員の選出について説明があり、審議の結果、これを議決した。

2 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

平成30年度計画に関する自己点検・評価の結果に基づき作成した「平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書」について説明があり、審議の結果、これを議決した。

なお、以下のような意見・質疑応答があった。

- ・日本経済新聞社が発表した「人事が見る大学イメージ」というランキングにおいて九州大学が総合首位であったという記事を見た。調査は各大学の学生のイメージについて、「行動力」、「対人力」、「知力・学力」、「独創性」の4項目で評価されており、九州大学は「行動力」、「独創性」でトップであった。記事には「2014年度から自律的に学び続ける人材育成を目的とした基幹教育を導入した」とあったが、基幹教育について、概要これからの展望などを伺いたい。

→21世紀プログラムで、丁寧に学生の主体性を発揮させ、オーダーメイドで各部局を渡りながら自分の学びを深めていったこと等が企業に評価されたと考えている。基幹教育の中で文系、理系を横串にさして、創造的、批判的思考を育むような対話型授業を入れ込んでいくことが重要だと考えている。

- ・共創学部では理系を含めた副専攻のような方向性は考えていないのか。

→現在の副専攻プログラムは人文社会系の科目が中心であるが、理系の学生も受講できる仕組みとなっており、大学全体に広がれば良いと考えている。

- ・基幹教育では、文系と理系の学生がお互いにどのように融合し合っているのか。これまではエネルギー、機械等の理系分野が注目されてきたが、人文社会系の学生の教育に関して、新たな戦略、強化策があるとするとどのようなものか。

→8年前から工学部、農学部では学士課程国際コースを設置し、英語のみで学位取得できるコースもあり、効果が出てきている。現在、全ての部局で国際コースを設置しており、優秀な留学生を取り込んでいる。また、理系と文系の横串をさすということで、基幹教育の中では基幹教育セミナーと課題協学科目があり、理系・文系の学生がクラスシェアしている。大学の学びは狭い専門性ではなく、様々な形の知を合流させることによって、狭い視野をいかに拡大させていくかというマインドセットを基幹教育の中で徹底して行っている。

3 平成30事業年度の決算について

文部科学省へ提出する平成30事業年度財務諸表（案）、決算報告書（案）及び事業報告書

(案) について説明があり、審議の結果、これを議決した。

4 令和2年度概算要求事項について

文部科学省へ提出する令和2年度概算要求事項について説明があり、審議の結果、これを議決した。

5 平成30年度資金運用実績について

平成30年度資金運用実績について、報告があった。

【懇談会】

1. 「共創学部の現状について～設置から1年を迎えて～」と題して共創学部の紹介があった。
2. 「人文科学研究院の新たな取り組みについて」と題して人文科学研究院の紹介があった。

【その他】

次回の経営協議会は令和元年10月25日(金)に開催予定である旨の案内があった。

(以 上)